

## 株養成期間の違いが秋ニラの収量に与える影響

本間 隆・岡部和広\*

(山形県最上総合支庁農業技術普及課産地研究室・\*山形県農業総合研究センター園芸試験場)

Effects of training period to chinese chive cultivated for harvesting in September to October

Takashi HONMA and Kazuhiro OKABE\*

(Yamagata Mogami Agricultural Technique Improvement Research Office・\*Horticultural Experiment Station, Yamagata

Integrated Agricultural Research Center)

### 1 はじめに

山形県最上地域では、昭和 55 年から作付けが開始されたニラが主力園芸品目となっており、露地のニラ産地としては日本一を誇る。当地域では、品種‘パワーグリーンベルト’を用いて 5 月から 10 月の連続した出荷体系を構築している。ただし、高単価が見込める 9 月以降（秋どり）の出荷量は不安定で少ない状況にある。そこで、9 月以降の安定生産に向けて、ハウス栽培で 2 年株と同程度の収量をj得ている 1 年株の利用<sup>2)</sup>に着目し、露地栽培における 1 年株利用の体系について<sup>1)</sup>報告したが、収穫年数が 1 年の本体系では収量性や収益性における課題が残された。そこで、本研究では株養成期間および刈り捨て時期に着目し、9 月以降の収量性の向上について検討を行った。

### 2 試験方法

山形県最上産地研究室（山形県新庄市角沢）において、前作がニラの圃場で試験を実施した。育苗はチェーンポット CP304 で行い、CP304 への播種時期について、7 月区（2012 年 7 月 5 日播種）、3 月区（2013 年 3 月 18 日播種）を設けた。1 セル当たりの播種粒数は 1 粒、試験規模は 1 区当たり 2 m<sup>2</sup>とし、2 反復とした。供試品種は‘ハイパーグリーンベルト’（武蔵野種苗園）、‘たいりょう’（渡辺採種場）とした。栽植様式は畝幅 4.0m、条間 0.5m、8 条植えとし、7 月区は 2012 年 8 月 27 日、3 月区は 2013 年 4 月 23 日に露地ほ場にそれぞれ定植した。施肥量（成分 kg/10a）は基肥を N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=10.0:12.0:17.0、追肥は生育期間中および刈り捨て後に行い、1 回当たり N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=2.0:1.2:3.0 を施用した。調査方法は、9 月下旬以降の収穫を目標とし、9 月 4 日及び 9 月 11 日に刈り捨てを行い、その後伸長してきたニラが出荷規格の 40cm に到達後に地際から収穫して調査を行った。なお、調査は 2 か年行った。

### 3 試験結果及び考察

#### (1) 収穫日

‘ハイパーグリーンベルト’は刈り捨て後の伸長が早かった。7 月区では、いずれの刈り捨てでも、収穫 1 年目および 2 年目ともに 2 回の収穫が可能だった。特に 9 月 4 日刈り捨てで、1 回目が 9 月 20 日、2 回目が 10 月 8 日に収穫が可能であり、現場が求める出荷時期と概ね一致した。3 月区では、1 年目は 1 回、2 年目には 2 回の収穫が可能だった（表 1）。「たいりょう」は、刈り捨て後の伸長は緩慢であり、いずれも 1 回の収穫だった。

#### (2) 株養成期間が収量に及ぼす影響

‘ハイパーグリーンベルト’の 7 月区の 9 月 4 日刈り捨てで収量が高く、いずれの年も合計約 260kg/a 程度の収量が見込まれた。3 月区でも 9 月 4 日刈り捨てで収量が高く、1 年目約 130kg/a 程度、2 年目 140kg/a 程度の収量が見込まれた。商品割合は、両区とも 1 年目が高く、9 月 4 日刈り捨てが最も高かった。その後は収穫回数を重ねるごとに低下していった（図 1）。品質では、両区とも一本重 5g 以上、葉幅 6mm 以上であったため、現地の秋ニラの出荷規格には十分に対応可能であった（図 2）。

‘たいりょう’では、2 年目の収量が多い傾向にあり、特に 7 月区 2 年目の 9 月 4 日刈り捨てで約 200kg/a 程度が見込まれた。商品割合は、両区ともに 9 月 4 日刈り捨てで高く、年次による差は小さかった。品質では、一本重 8g 以上、葉幅 8mm 以上であり、‘ハイパーグリーンベルト’を上回った。

### 4 まとめ

ニラ品種‘ハイパーグリーンベルト’を用い、前年 8 月に定植し翌年から収穫する体系では、9 月上旬に刈り捨てすることで、9 月下旬から 10 月上旬にかけて年 2 回、2 か年で計 4 回の収穫が可能である。また、収量性も見込まれたことから、秋期の収益が期待できると考えられた。

### 引用文献

- 1) 本間隆, 岡部和広, 浪波史子. 2015. ニラの 1 年株利用による露地秋どり作型. 東北農業研究 71: 33-43

2) 佐藤隆二, 齋藤容徳, 奥野祐子, 根岸直人, 半田有宏. 2013. ニラの 1 年株利用による年内作型. 栃木農試研報 71 : 33-43.

表1 播種時期と刈り捨て時期別の収穫日

品種	播種	収穫年	刈り捨て 収穫 (月/日)	
			(月/日)	1回目 2回目
ハイパー グリーン ベルト	7月	1年目	9/4	9/20 10/9
			9/11	9/26 10/18
	3月	1年目	9/4	9/20 10/9
			9/11	9/26 10/18
	3月	2年目	9/4	9/20 10/9
			9/11	9/26 10/18
たいりょう	7月	1年目	9/4	9/24 -
			9/11	10/1 -
	7月	2年目	9/4	9/25 -
			9/11	10/6 -
	3月	1年目	9/4	10/21 -
			9/11	10/21 -
3月	2年目	9/4	9/25 -	
		9/11	10/6 -	

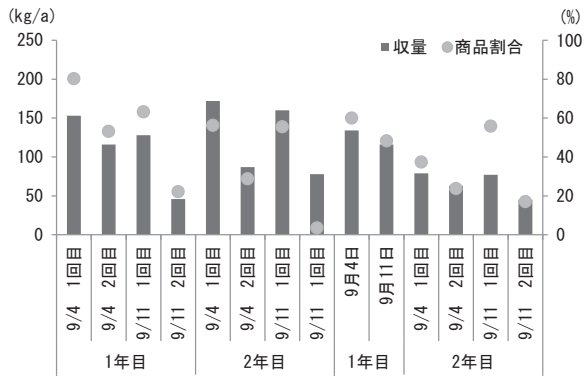


図1 播種時期と刈り捨て時期別の収量  
(ハイパーグリーンベルト)

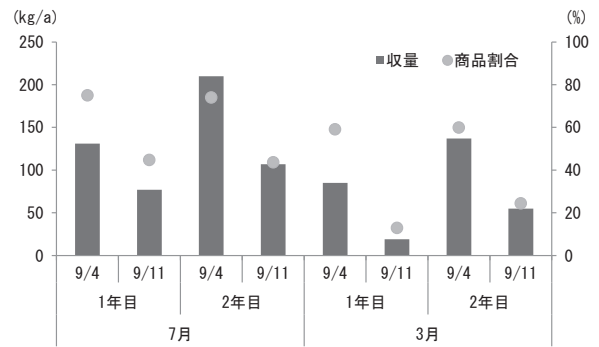


図2 播種時期と刈り捨て時期別の収量  
(たいりょう)

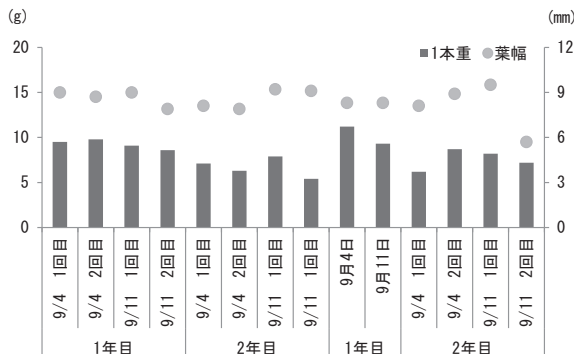


図3 播種時期と刈り捨て時期別の品質  
(ハイパーグリーンベルト)

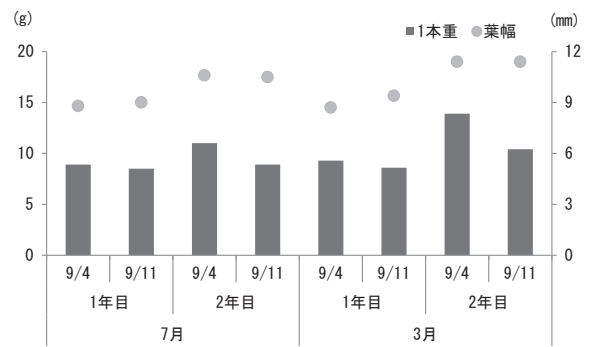


図4 播種時期と刈り捨て時期別の品質  
(たいりょう)